

## 豊中市立学びの多様化学校のめざす方向性

### はじめに

子どもたち一人ひとりの多様な価値観や学び方を尊重し、誰もが安心して自分らしく学べる環境づくりを実現させるため、豊中市立学びの多様化学校がめざす方向性と、その実現に向けた基本的な考え方を、以下に示します。

### 1 教育目標

#### (1)学校教育目標

自分らしい歩みを重ね、人と人のつながりを大切にして学び合う力の育成

#### (2)めざす姿

##### めざす生徒像

- 新たな学習環境で、自分らしさを見つけ、安心して学び続ける生徒  
～自分の良さや可能性に気づき、学びの楽しさを見つける～
- 小さな挑戦を積み重ね、次の一步を踏み出す生徒  
～一歩ずつ進むことに価値を見い出す～
- 多様な人々と協力し、学び合いながら社会とつながる生徒  
～仲間や地域、社会とともに考え支えあう～

##### めざす学校像

- 子ども一人ひとりのペースと気持ちに寄り添う学校  
～安心できるカリキュラムと環境～
- これまでの経験を肯定的に生かせる学校  
～経験を強みに変える場所～
- 学び方や過ごし方を柔軟に選べる学校  
～「どこで、何を、どのように学ぶか」を自分で選べる仕組み～
- 地域や社会と協働し、つながりを広げる学校  
～仲間や地域とともに学び合う場をつくる～

##### めざす教職員像

- 生徒に安心感を与え、寄り添える教職員  
～信頼と安心を届ける存在～
- 生徒の自己選択・自己決定を尊重し、伴走できる教職員  
～ともに考え、歩みを支えるパートナー～
- 興味を引き出す授業づくりができる教職員  
～気づきを育み、学びを広げる対話～
- 多様な学び方や新しい取り組みを柔軟に取り入れ、変化に対応できる教職員  
～挑戦を楽しみ、進化し続ける柔軟性～

## 2 学校づくりのコンセプト

令和6年度、豊中市の不登校児童生徒は過去最多となり、全国的にも大きな課題です。本市では、校内教育支援センターや教育支援センターを中心に、子どもたちが安心して過ごせる居場所づくりを進めてきました。こうした状況を踏まえ、文部科学省「誰一人取り残さない学びの保障に向けた不登校対策 COCOLO プラン」を背景に、生徒一人ひとりに応じた学びを保障する新しい選択肢として「学びの多様化学校」を開校します。

この学校では、子どもが「どこで、何を、どのように学ぶか」を自分で選ぶ環境を整えます。学び方は一つではありません。個別にじっくり取り組む時間と、仲間や地域とつながりながら学び合う時間の両方を大切にします。まずは小さな一歩を踏み出すことに意味があると考え、子どもが「やってみよう」と思える安心感のある場をつくりまします。

さらに、市内の中学校、義務教育学校、教育支援センター（いぶきの創造活動）としっかり連携し、子どもたちが無理なく学びを選ぶ柔軟な仕組みを整えます。地域や社会とのつながりを広げながら、さまざまな人と協力し、学びを深める機会を増やしていきます。少人数での授業を取り入れ、専門職員とともに、一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな取組みを進めます。

## 3 不登校児童生徒への支援の基本的な考え方

不登校は、子ども一人ひとりの心や体の状態、学校や家庭の環境、人間関係など、いくつもの要因が重なって誰にでも起こりうることです。だからこそ、子どもの気持ちを丁寧に受け止め、子どもが安心できる環境を整え、学び方や過ごし方を選ぶ仕組みをつくり、「自分で選んだ」という子どもの実感を大切にします。

信頼できる大人や同世代との関わりを通じて、児童生徒が自らの存在が受け止められていると感じられる環境づくりを進めます。

家庭と学校が一緒になって子どもを支える体制づくりに加え、保護者どうしがつながる機会もつくりまします。教職員は、子どもの小さな変化を見逃さず、専門職員や関係機関と協力しながら、きめ細やかな支援を行います。学習のサポートだけでなく、心をほぐす時間や、地域と関わる体験活動も取り入れまします。

この学校では、「まずは一歩を踏み出す」ことを大切にします。小さな成功体験を積み重ねることで、子どもが自分らしく成長し、社会の一員として自立していけるよう、生活面・学習面・人間関係の力を育みます。私たちは、子どもが安心して社会とつながり、未来に向けて自分のペースで歩いていけるよう、寄り添いながら伴走しまします。

## 4 学びの多様化学校へのサポートと連携の取組み

豊中市教育委員会では、教職員、スクールカウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）、別室登校支援員（SRS）などに加え、関係機関・家庭・地域と連携する「チーム学校」の体制を整え、不登校児童生徒への切れ目ない支援を進めていきます。

学びの多様化学校がめざす姿を実現するため、学校が生徒一人ひとりの状況に応じて関わり方や学び方を柔軟に選べるよう、教員配置、研修実施、設備と教具の充実、転入学手続きなど、校内の体制づくりを支えます。また、安心できる関係を育む仕組みや、学びを無理なくつなぐための連携の枠組みについて、学校・家庭・関係機関がそれぞれの役割を生かせるよう支援し、協働的な支援の仕組みがよりよく機能するよう、継続して支えていきます。

さらに、地域や関係機関との連携を通じて校内外の多様な学びをつなぎ、生徒が社会とのつながりを少しずつ広げていけるよう支援します。これらの連携は、生徒の声に耳を傾けながら、状況に応じて柔軟に調整していきます。

## おわりに

生徒一人ひとりの状況は日々変化します。『学びの多様化学校のめざす方向性』は、そうした変化やニーズを踏まえ、継続的かつ柔軟に見直していきます。見直しの結果は、学校の取組や支援体制の改善に反映し、よりよい学びの環境づくりにつなげます。